



1.

1. さまざまな曲目で場内を盛り上げた高田高校吹奏楽部  
2. 福興祭の開幕を飾った平泉山王太鼓  
3. 玩具ブロックで作られた金色堂と制作者の直江さん



3.

## 元気を発信！平泉福興祭2012 ～郷土芸能と食の祭典～



4. 軽快なリズムの盛岡さんさ踊り  
5. 普代村の鶴鳥神楽  
6. 迫力ある山田町の境田虎舞

平泉の世界遺産登録の1周年記念と東北の復興を応援する「平泉福興祭2012」郷土芸能と食の祭典が6月16日、17日の両日、観自在王院跡で盛大に開催されました。

初日となった16日は、あいにくの雨模様の中、地元山王太鼓が力強い演奏を披露し開幕を飾りました。奥州市新里念仏剣舞や盛岡さんさ踊り、岩泉町の中野七頭舞などの郷土芸能が披露されたほか、県立高田高校吹奏楽部による元気な演奏も披露されました。

また組み立て玩具ブロックで作られた中尊寺金色堂の模型も披露されました。この模型は登録1

周年を記念し、県とレゴジャパン社が企画したもので同社認定モデルビルダーの直江和由さんが制作しました。大きさは実物のおよそ10分の1スケールで、約3万ピースのブロックが使用されています。

2日目は、前日の雨とは一転して快晴に恵まれました。平泉達谷窟毘沙門神楽や北上市の谷地鬼剣舞、沿岸からは普代村の鶴鳥神楽や山田町の境田虎舞の力強い舞が披露され、来場者に元気を発信していました。会場内では、地元商工会をはじめ、一閑ハラミ焼などB級グルメなども出店。沿岸の特産品や海産物も販売され、多くの来場者で賑わいました。



2.



1.

1. 作業終了後、みんなで記念撮影  
2. 作業は植えている苗を抜いたところに、色の付いた苗を植えていきます

## 今年の絵柄は「馬上の義経」 ライスアート in ひらいずみ



3. 子どもたちも泥の感触を楽しみながらお手伝い  
4. 徐々に絵柄が浮かび上がってきました(6月26日撮影)

「ライスアートinひらいずみ」の田植え体験が6月2日、長島地区の大区画ほ場で開催されました。4回目となる今回は、世界遺産登録の1周年を記念して、初めて本格的な絵柄に挑戦しました。タイトルは「馬上の義経」。

キャンパスとなったほ場(約1.1ha)全面には、あらかじめ「どんぴしゃり」の苗が植えられています。ライスアートは、ほ場に遠近法を用いて測量されたピンにテープでラインを張り、そのラインを目印に色の付いた苗を植えていきます。

参加した町民ら約180人は、

さわやかな青空の下、縦70m、横30mの馬にまたがった馬上の義経を3種類の苗を使って描きました。絵柄の馬と縁取りの部分には黒い稲の「紫短桿」。義経の顔の部分には白い稲の「ゆきあそび」。衣服の部分には黄色い稲の「黄稲」という品種を使用しています。

慣れた手つきで苗を植える人、泥の感触を楽しみながら苗を植える人など思い思いに田植えを楽しみながら、それぞれの箇所にも苗を植えました。

終了後には「たばこ」のカレーライスも振る舞われ、参加した人たちは笑顔で頬張っていました。